

瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2018.10.31 時点)

分類	保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量	前回報告比※1 (2018.10.25)	変動※2 理由	エリア 占有率	保管量※3／保管容量 (割合)	トピックス			
瓦礫類	屋外集積 (0.1mSv/h以下)	B	屋外集積	0.01未満	2,700	m ³	-300	m ³	①	81 %	182600 / 250700 (73%)	・フランジタンク解体片 2018年10月末時点でコンテナ852基保管。 エリアP1 コンテナ数：646基 (2015年6月15日～) エリアAAコンテナ数：206基 (2018年3月15日～)
		C	屋外集積	0.01未満	61,700	m ³	-1,000	m ³	②	97 %		
		F2	屋外集積	0.01未満	6,400	m ³	0	m ³	—	85 %		
		J	屋外集積	0.01	4,300	m ³	0	m ³	—	53 %		
		N	屋外集積	0.01未満	4,900	m ³	+400	m ³	③	49 %		
		O	屋外集積	0.01未満	43,500	m ³	微減	m ³	—	85 %		
		P1	屋外集積	0.01未満	48,200	m ³	-100	m ³	④	75 %		
		U	屋外集積	0.01未満	700	m ³	0	m ³	—	100 %		
		V	屋外集積	0.01	3,400	m ³	+1,000	m ³	⑤⑥⑦	57 %		
	AA	屋外集積	0.01未満	6,800	m ³	+300	m ³	③	19 %			
	シート養生 (0.1～1mSv/h)	D	シート養生	0.01未満	2,600	m ³	0	m ³	—	58 %	38300 / 71000 (54%)	・エリアWでの車両解体（プレス等）完了。(2018年1月)
		E1	シート養生	0.02	14,000	m ³	0	m ³	—	88 %		
		P2	シート養生	0.01	5,500	m ³	0	m ³	—	62 %		
		W	シート養生	0.03	8,100	m ³	微増	m ³	—	26 %		
		X	シート養生	0.01	7,900	m ³	0	m ³	—	65 %		
	覆土式一時保管施設、 仮設保管設備、容器 (1～30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	16,000	m ³	0	m ³	—	100 %	19000 / 31700 (60%)	・主な瓦礫類は、1～3号機工事等で発生した瓦礫類。 ・覆土式4槽の受入開始に伴い、保管容量（4,000m3）増加。 (2018年5月)
		A	仮設保管設備	0.14	1,000	m ³	微増	m ³	—	15 %		
		E2	容器※4	0.02	300	m ³	0	m ³	—	19 %		
		F1	容器	0.01未満	600	m ³	0	m ³	—	99 %		
		Q	容器	0.04	1,000	m ³	-100	m ³	⑧	17 %		
	固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物 貯蔵庫	容器※4	0.01	11,100	m ³	+600	m ³	③⑨	24 %	11100 / 45600 (24%)	・主な瓦礫類は、1～3号機工事等で発生した瓦礫類。 ・固体廃棄物貯蔵庫9棟の運用開始に伴い、保管容量（33,600m3）増加。 (2018年2月)
合計（ガレキ）				250,700	m ³	+800	m ³	—	60 %			
伐採木	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	G	屋外集積	0.01未満	25,200	m ³	微増	m ³	—	63 %	96600 / 134000 (72%)	
		H	屋外集積	0.01未満	31,700	m ³	0	m ³	—	74 %		
		M	屋外集積	0.01未満	39,600	m ³	0	m ³	—	88 %		
		V	屋外集積	0.01	100	m ³	0	m ³	—	2 %		
	一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	26,200	m ³	0	m ³	—	88 %	37300 / 41600 (90%)	
		T	伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100	m ³	0	m ³	—	94 %		
合計（伐採木）				133,900	m ³	0	m ³	—	76 %			
保護衣	屋外集積	容器	0.04	53,800	m ³	-2,500	m ³	⑩	76 %	53800 / 71200 (76%)	・使用済保護衣等焼却量 4957t（2018年10月末累積） ・焼却灰（プラスチック含む）のドラム缶数 1073本（2018年10月末累積）	
合計（使用済保護衣等）				53,800	m ³	-2,500	m ³	—	76 %			

※1 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは100m³未満の増減を示す。

※2 主な変動理由：①一時保管エリアVへ瓦礫の移動 ②シート養生作業による減 ③タンク関連工事 ④一時保管エリアCへ瓦礫の移動 ⑤構内一般廃棄物保管
⑥構内瓦礫保管 ⑦一時保管エリアBからの移動 ⑧瓦礫を固体庫へ移動 ⑨一時保管エリアQからの移動 ⑩焼却運転

※3 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。

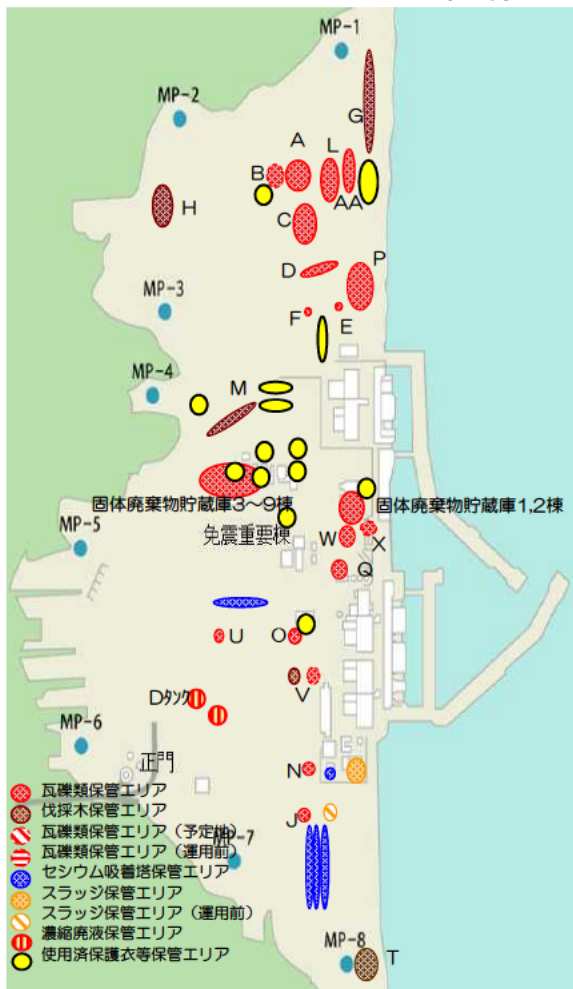
※4 水処理二次廃棄物（小型フィルタ等）を含む。

水処理二次廃棄物の管理状況(2018.11.8時点)

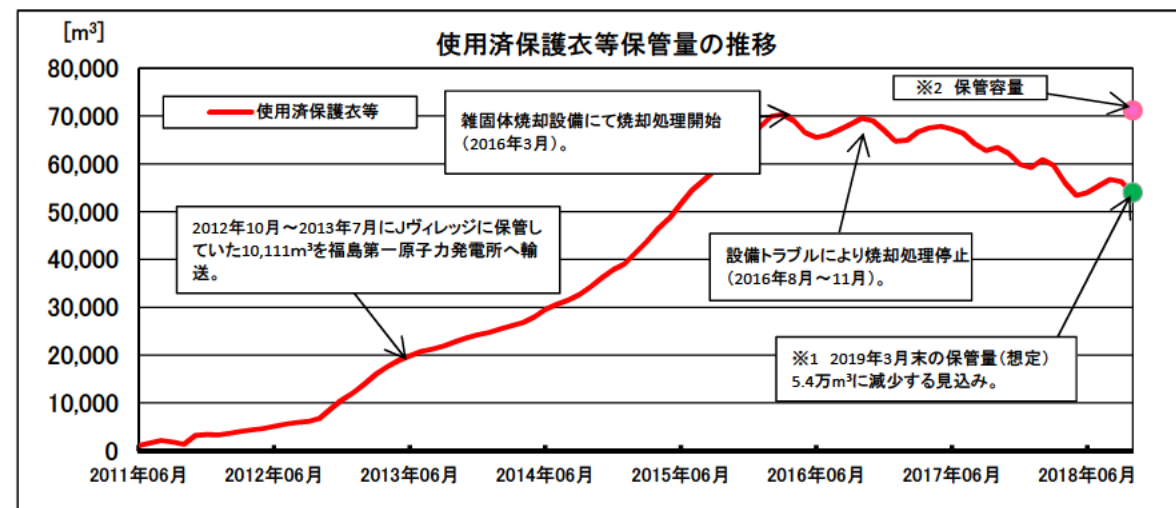
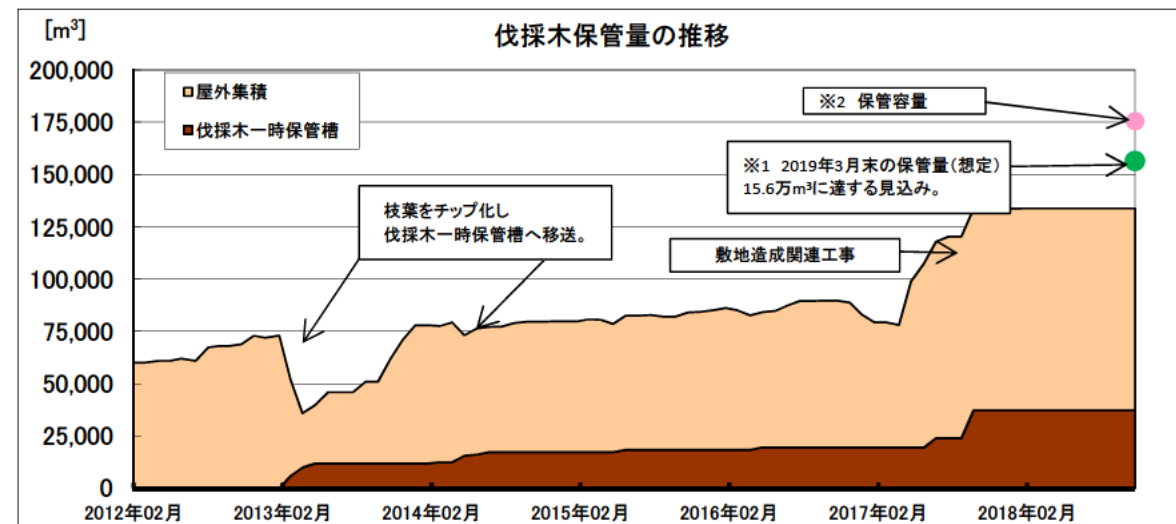
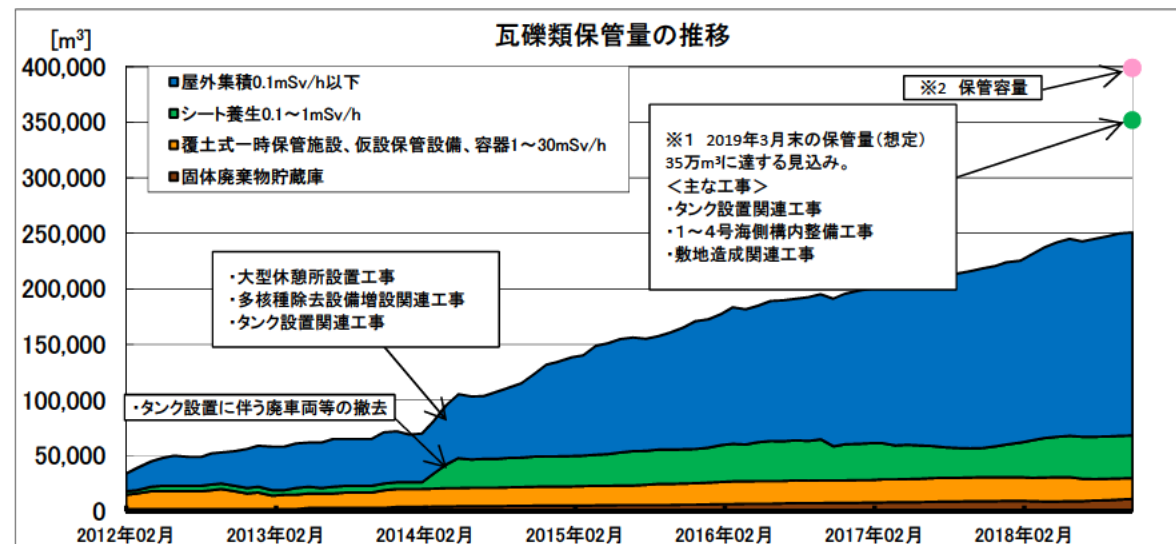
分類	保管場所	種類	保管量		前回報告比 (2018.10.25)		保管量／保管容量 (割合)	トピックス
水 処 理 二 次 廃 棄 物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル		771	本	0	本	4178 / 6372 (66%) ・吸着塔一時保管施設の増容量が認可（2015年12月14日） ・使用前検査完了（2017年5月26日）に伴う保管容量増（第四施設架台129塔分）
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル		208	本	+2	本	
		多核種除去設備等保管容器	既設	1,551 ^{※1}	基	+20	基	
			増設	1,360 ^{※2}	基	+18	基	
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	高性能	74	本	0	本	
		多核種除去設備処理カラム	既設	11	塔	0	塔	
	モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類		203	本	+1	本		
	廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ	597	m ³	0	m ³	597 / 700 (85%)	・除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 ・準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。
	濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,364	m ³	-23	m ³	9364 / 10700 (88%)	・タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。（現場パトロール異常なし） ・水位計0%以上の保管量：9264 [㎡] タンク底部～水位計の保管量(DS)：約100[㎡]

※1：データ集計の間違い修正により、基数を訂正。 【正】1,551基 【誤】1,534基（2020.3.4）

※2：データ集計の間違い修正により、基数を訂正。 【正】1,360基 【誤】1,377基（2020.3.4）



瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2018.10.31 時点)



※1 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管量(想定)は、実施計画(2018年3月26日認可)の予測値を示す。
 ※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管容量は、運用上の上限を示す。

水処理二次廃棄物の管理状況(2018.11.8時点)

